

仮想企業でビジネス実践 アロマキャンドル体験教室 鶴城丘高3年生が文化祭で

県立鶴城丘高校(杉山邦雄校長)の文化祭が二十八日にあり、起業活動

を学んでいる三年生がアロマキャンドル体験教室を開催した。三年生七人は、総合選択科目「ビジネス実践」の一環で、西尾信用金庫主催の「西三河ハイスクール・起業家コンテスト2010」に、「Rose can can」という仮想企業を立ち上げて参加している。社長に村田元気さん、代表に石川香澄さんを選び、四月から商品を練り始めた生徒たちは、癒しやエコをキーワードに設定し、コミュニケーション能力の育成なども考慮して、アロマキャンドルの体験教室の開催を決

定。全校生徒から廃油を回収したり、料金設定などの利益計画を作成したりして準備を進めてきた。この日、材料となる紙コップやろ過した廃油、色付け用のクレヨン、三種類のアロマオイル、芯となる油取り紙を用意。生徒たちは、紙コップに廃油を流し込んだり、割りばしに芯をはさんでぶら下げて固まるのを待ちたりする、一つ一つの工程を体験者に分かりやすく指導していた。社長の村田さんは「自分たちは作り方を知っている、これで分かるだろうという説明では、初め

ての人には伝わらないところが分かった。商売の難しさを実感した。次回は、もう少しうまく説明できるようにしたい」と話していた。生徒たちは十月十六

日、西三河農協の農業まつりでも体験教室を開催することにしている。1年がストーンブパフォーマンスまた、体育館ステージ



キャンドル作りを指導する生徒たち

では、一年E組の生徒が、ストーンブのパフォーマンスを披露した。ストーンブはイギリスのストリートで、一九九一年に生まれたパフォーマンス。デッキブラシやバケツなど、身近なものをたたいたり、床をこすったりして音を出し、一つの曲として奏でるもの。この日、夏休みからプロミュージシャンの指導のもとで練習を積んできた生徒たちが、その成果を披露。心地よい音色が響き渡り、会場を盛り上げた。

廃油からアロマキャンドル

起業家コンテスト参加の鶴城丘高生

起業活動を学ぶ県立鶴城丘高校の3年生7人が仮想企業を立ち上げて、廃油を使ったアロマキャンドルづくりの体験教室を開いた。28日にあった同校文化祭の中で企画した。

総合選択科目「ビジネス実践」の一環として、西尾信用金庫(近藤実理事長)が主催する「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」に参加。社名は「Rose can can」で、代表者は石川香澄さん。

同社では家庭で廃棄する食用油を全校生徒に呼びかけて回収。ろ過して凝固材を使い、型枠としてコップなどで仕上げた手づくりろうそくを制作した。ローズやグレープフルーツ、メロンなどの香料も加えて、灯した時に癒しと安らぎを与える商品を考案した。

体験教室は来場者にアロマキャンドルづくりを楽しんでもらうサービスを100円で提供。社員らは制作

方法をいねいにアドバイザーしながら、コミュニケーション能力も磨いた。参加した生徒らは自ら作ったオリジナルのろうそくをうれしそうに持ち帰っていた。なお、起業家コンテストには西三河南部エリアで専門学科のある10高校から20

チームが登録。今年6月から11月30日までの半年間にわたって、野菜や果物、工芸品などの商品開発から広告、学祭などでの販売、経理にいたるまでのビジネスを体験している。同信金は運営費として4万5000円を助成。来年初めには表彰式があり、年末までに提出する計画と実績を検証したビジネスプラン結果報告書によって審査する。

